

くまもと経済

C 表紙の人
Cover Story

北野 忠男
えがお社長
顧客満足度高め、業界ナンバーワン企業へ

10 2019
月号
VOL.460



変わる中心市街地 **桜町再開発ビル完成**

「桜町」開業を“街なか再興”の好機に
県内企業の消費税増税対策／終盤迎える2020年卒就職採用戦線

12月14日にビジネスプランコンテスト

崇城大学（熊本市西区池田4丁目、中山峰男学長）は12月14日、第6回崇城大学ビジネスプランコンテストを開催する。

起業を目指す高校生、高専生、大学生らが考案したスタートアップ（新規市場開拓を目指すビジネスモデル）を市場性、収益性、独創性、実現可能性、プレゼンテーションの内容などの観点から評価し優劣を競う大会で、2014年から毎年開いており、今回で6回目の開催。会場は同大学池田キャンパス内の崇城大学SOLAホール。開演時間は午後1時から午後6時半。当日は書類選考、2次審査を勝ち抜いた8組がファイナリストとして出場し、各自のビジネ

スプランを発表する。優勝チームには賞金50万円が授与される。

地域活性化のための理論と実践法を学ぶ新コース開設

また同大は来年4月、情報学部地域活性化理論「SCB理論」とその活用方法を学ぶ新コースを開設する。

同大学情報学部の星合隆成教授が提唱する地域活性化を目的としたSCB理論をベースに、地域活性化の実践的なプログラムである「SCBアクティブラーニング」を導入した新コース。来年10月からは全学部での開設を予定している。「SCBアクティブラーニング」は、地域活性化に向け、地域資源を効率的に活用するための連携のあり方をIOTやAIといった先端技術を取り入れた科学的に考察しようという試み。金融機関、省庁からも、地域活性化、中

小企業の支援策として、同理論及び実践のためのプログラム導入が計画されているという。